

# 公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会 平成29年度の事業報告（詳細版）

## I 公益目的事業

### 1. 農林水産・食品分野における試験研究及び技術開発に功績ある者の表彰

農林水産業及び食品産業の技術革新を通じて国民への食料の安定供給と地域社会の健全な発展に寄与する観点から、試験研究に携わる研究者の意欲の増進と研究成果の普及を目的として、農林水産・食品分野における試験研究及び技術開発に功績のある者を表彰した。

#### 1) 第73回農業技術功労者表彰

対 象：農業技術・経営の研究又は技術普及に顕著な功績を挙げた功労者  
(平成29年4月1日時点において40歳以上)

主 催：農林水産省及び公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

公募期間：平成29年6月5日(月)～8月7日(月)

選考委員会：平成29年9月13日(水) 農林水産省農林水産技術会議委員室

表 彰 式：12月8日(金)三會堂ビル石垣記念ホールにて開催、協会から副賞を贈呈  
受賞者（農林水産技術会議会長賞）

地域特産鶏名古屋コーチンの改良と普及

木野 勝敏 氏（愛知県農業総合試験場 畜産研究部 養牛研究室長）

タバココナジラミ媒介性ウイルス病の発生生態解明と防除技術の確立

行徳 裕 氏（熊本県農業研究センター 生産環境研究所長）

地球観測衛星情報を活用した農耕地の広域生産力評価技術の開発

志賀 弘行 氏（地方独立行政法人北海道立総合研究機構 農業研究本部長）

大豆の用途別加工適性品種育成と貯蔵蛋白質の質的改良

矢ヶ崎 和弘 氏（長野県野菜花き試験場 研究技監兼野菜部長）

溶液受粉と新優良台木によるキウイフルーツ省力安定生産技術の開発

矢野 隆 氏（愛媛県農林水産研究所 果樹研究センター長）

畑地の窒素溶脱低減を進める土壌診断の迅速・低コスト化とICTを活用した見える化

八楨 敦 氏（千葉県農林総合研究センター 水稲・畑地園芸研究所長）

#### 2) 第18回民間部門農林水産研究開発功績者表彰事業

主 催：農林水産省及び公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

表彰の対象者：民間部門で、農林水産分野の研究開発に顕著な功績・功労のあった個人または団体

表彰の区分：農林水産大臣賞、農林水産技術会議会長賞、(公社)農林水産・食品産業技術振興協会会長賞

公募期間：平成29年3月10日(金)～5月10日(水)

選考委員会：平成29年8月3日(木) 農林水産省農林水産技術会議委員室

表彰式: 10月4日(水)午後 アグリビジネス創出フェア2017会場メインステージにて開催、  
JATAFF会長より協会会長賞(1件)を授与

[農林水産大臣賞 受賞者]

甘藷メリクロン苗供給システム確立等による甘藷農業の6次産業化

尾曲 修二(農業生産法人アネット有限会社)

[農林水産技術会議会長賞 民間企業部門 受賞者]

道産アスパラガスからの機能性食品ETASの開発と販売網の構築

株式会社アミノアップ化学(代表 小砂 憲一)

腕上げ作業補助器具“腕楽つく”の商品化\*

保田 将史(株式会社ニッカリ)、大西 久雄(元株式会社ニッカリ)

干ばつ常襲地帯に適したさとうきび農林23号の選定と普及拡大

光 富広(与論島製糖株式会社)

[農林水産技術会議会長賞 農林漁業者部門 受賞者]

スイートピーオリジナル品種の育成\*

河野 正敏(農業自営)

[公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会会長賞 受賞者]

地域活性化に資する農村地域資源管理システム「VIMS」の開発

進藤 圭二、友松 貴志、畠山 顕(株式会社イマジックデザイン)

杠 公右、庄 直樹(株式会社ソニックビジョンクリエイト)

(\*印の受賞者には園芸試験場百周年を記念して設けられた「園芸研究功労賞」が併せてJATAFF会長から授与)

### 3) 第13回若手農林水産研究者表彰事業

対象: 原則として平成29年4月1日時点において40歳未満の、農林水産業及び関連産業に関する研究開発の業務に従事する個人

主催: 農林水産省、協賛: 公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

公募期間: 平成29年3月10日(金)~5月10日(水)

選考委員会: 平成29年8月1日(火) 農林水産省農林水産技術会議委員室

表彰式: 10月4日(水)午後 アグリビジネス創出フェア2017会場メインステージにて開催  
受賞者(農林水産技術会議会長賞)

砂漠化抑制と収量増加をともに実現する省力的技術の開発

伊ヶ崎 健大 氏(国際農林水産業研究センター 生産環境・畜産領域)

食品の有効な摂取に向けた体内時計調節に関する研究

大池 秀明 氏(農研機構 食品研究部門)

ナシとリンゴの省力栽培形質に関するDNAマーカーの開発

岡田 和馬 氏(農研機構 果樹茶業研究部門)

乳酸菌オリゴDNAを腸まで届ける経口用ナノカプセルの開発

下里 剛士 氏(信州大学 菌類・微生物ダイナミズム創発研究センター)

TMRセンターを核とした地域飼料流通利用システムの開発

渡邊 潤 氏(秋田県畜産試験場 飼料・家畜研究部)

#### 4) 農事功績者表彰事業候補者の推薦

公益社団法人大日本農会から6月1日付で推薦依頼があり、深谷 富夫氏、敷島製パン株式会社代表の藏満 正朋氏他を推薦したところ、深谷 富夫氏に「緑白綬有功章」、敷島製パン株式会社代表の藏満 正朋氏他に「名誉賞状」が授与された。なお、表彰式及び祝賀会は平成29年11月15日(水)に三会堂ビル9階石垣記念ホールにて開催された。

## 2. 農林水産・食品分野におけるイノベーション促進のための支援

試験研究機関における研究成果や研究開発の状況、関連特許情報を全国的に収集し発信するとともに、研究成果の普及・実用化過程における問題点や課題を明らかにすることで、試験研究機関において開発された研究成果が農林水産業や食品産業の現場で活用され、産業化に結び付くことを目的として以下の事業を実施した。

### 1) 情報の提供・普及

- (1) 記念講演会 6月15日(木) 15:00~16:15 三会堂ビル石垣記念ホール  
「カミオカンデ/スーパーカミオカンデとのかかわり～世界最大径光電子増倍管～」  
浜松ホトニクス株式会社 顧問 袴田 敏一 氏

### (2) 技術情報交流セミナー (三会堂ビル会議室で開催)

- 第542回 5月30日(火) 元気な農と食を支える女性研究者の育成  
農研機構 理事 村上 ゆり子 氏
- 第543回 7月28日(金) 日本介護食品協議会とユニバーサルデザインフード(UDF)  
について 日本介護食品協議会 事務局長 藤崎 享 氏
- 第544回 9月20日(水) 薬用作物の国内生産拡大に向けた技術開発の現状と成果  
農研機構次世代作物開発研究センター 資源作物育種ユニット長 大潟 直樹 氏
- 第545回 11月20日(月) VR、ARが拡張する食の満足感と記憶  
東京大学大学院情報理工学系研究科 特任准教授 谷川 智洋 氏
- 第546回 12月14日(木) 食品による体内時計の調節  
農研機構 食品研究部門 大池 秀明 氏

### (3) 機関誌の発行、情報のホームページ等での公開

#### ア 機関誌「JATAFF ジャーナル」の発行 (毎月1日に1,700部)

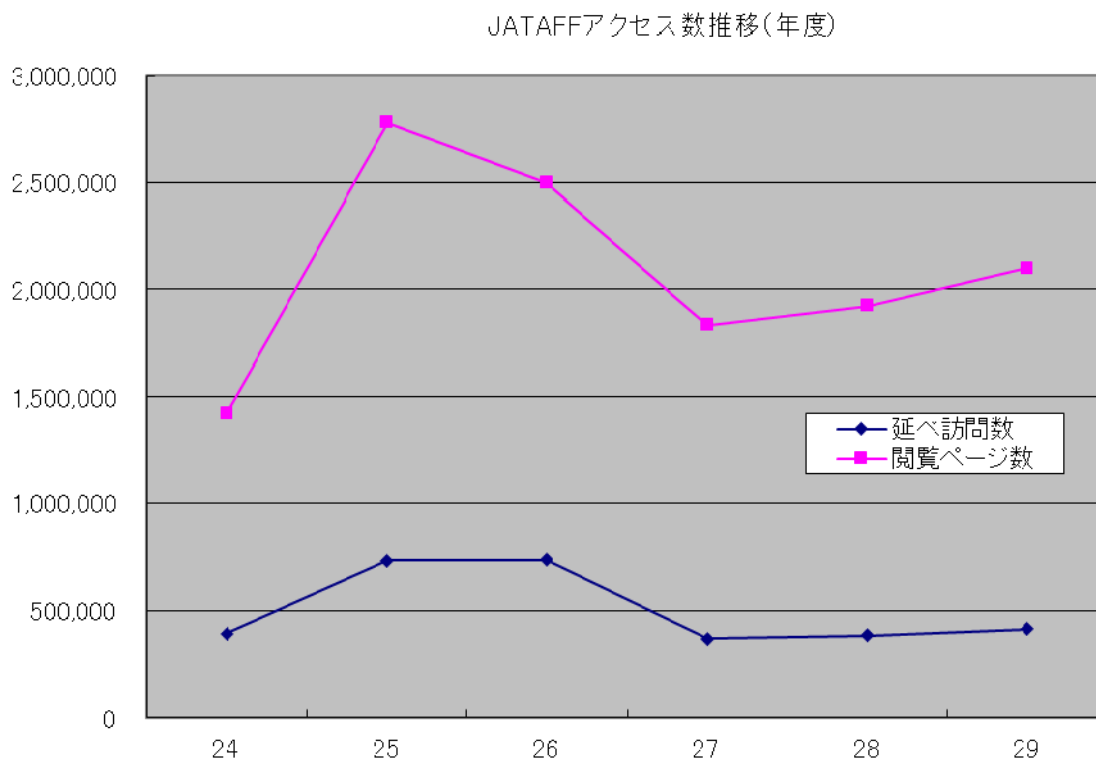
—特集記事—

- 4月号 第17回民間部門農林水産研究開発功績者表彰受賞者の業績
- 5月号 第12回若手農林水産研究者表彰受賞者の業績
- 6月号 花き研究の最前線
- 7月号 近畿中国四国地域の農業の明日を拓く品種と技術
- 8月号 東北農業の未来を拓く革新技術
- 9月号 家畜ゲノム研究の現状と将来
- 10月号 スマート農業を支える技術開発
- 11月号 九州沖縄地域の多様な農業を支える技術開発
- 12月号 超高齢社会における新たな食品の開発
- 1月号 地域が誇る農の逸品2018
- 2月号 第18回民間部門農林水産研究開発功績者表彰受賞者の業績
- 3月号 第13回若手農林水産研究者表彰受賞者の業績

## イ ホームページ（HP）の運営

コンテンツの充実を図り、情報提供を行った。

訪問者の推移については、年間の延べ訪問数は約 41 万件、ページビュー（閲覧ページ数）は約 210 万であった（図）。



## ウ メールマガジン「JATAFF ニュース」の配信

115 号～138 号、号外（2017. 11. 15）、号外（2017. 12. 6）、号外（2018. 1. 11）及び号外（2018. 3. 5）を配信（3月31日まで）

## エ 「グリーンレポート」作成事業（全農からの委託）

全農が発行する月間情報誌「グリーンレポート」に、公設農業関係試験研究機関等における最新の研究成果情報の中から営農に寄与する新技術に関する紹介原稿を提供した。

## 2) 新産業の創出、研究開発・成果の普及のための調査・支援

### (1) 「知」の集積による産学連携推進事業のうち知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業

農林水産業・食品産業の成長産業化を推進するため、昨年度構築された「知」の集積と活用の場という産学連携の仕組みの中で、全国の活動組織を集めたコンソーシアムの代表機関として、全国に配置した高度な専門知識を有するコーディネーター(CD)を駆使し、他分野との融合を含む産学連携の更なる強化を図ることにより、知識・技術・アイデアを集積させ、革新的な研究成果を生み出し、それらをスピード感をもって事業化・商品化に導く。

全国規模及び地域において技術交流展示会やセミナー、知的財産に関する研修会を開催するとともに、知的財産に関する調査・調整等の支援により、「知」の集積と活用の場における技術移転の加速化を図った。

- ・ 知的財産の技術移転加速化事業「周辺特許情報等の調査」・「共有特許等の権利調整等」
  - 第1回支援案件募集 6月1日(木)～6月30日(金)：3件を採択し実施
  - 第2回支援案件募集 8月25日(金)～9月25日(月)：5件を採択し実施
  - 第3回支援案件募集 10月27日(金)～11月22日(水)：4件を採択し実施
  
- ・ 連絡調整会議
  - 第1回連絡調整会議 7月10日(月) TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター
  - 第2回連絡調整会議 3月5日(月) TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター
  
- ・ 事業化可能性調査
  - 第1回募集 6月12日(月)～6月26日(月)：5件を案件登録し実施
  - 第2回募集 7月18日(火)～8月4日(金)：4件を案件登録し実施
  - 第3回募集 9月7日(木)～9月21日(木)：7件を案件登録し実施
  
- ・ アグリビジネス創出フェア 2017 10月4日(水)～6日(金) 東京ビッグサイト  
出展者選定会議、ブース展示、マッチングサポートツアーの実施や個別相談他
- ・ Bio Japan 2017 10月11日(水)～13日(金) パシフィコ横浜 ブース展示  
(Bio Japan 2017 主催団体連絡会：平成29年1月11日(水)、9月8日(金)、  
10月11日(水)； Bio Japan 2018 主催団体連絡会：平成30年1月10日(水))
- ・ フード・フォーラム・つくば企業交流展示会 11月2日(木) つくば国際会議場 ブース展示
- ・ アグリビジネス創出フェア 2017 in 東海 11月7日(火)～8日(水)  
名古屋大学野依記念学術交流館 ブース展示
- ・ アグリビジネス創出フェア 2017 in Hokkaido 11月17日(金)～18日(土)  
サッポロファクトリー ブース展示
  
- ・ アグリ技術シーズセミナー in 沖縄 11月29日(水) 沖縄県立美術館・博物館  
「沖縄の技術シーズを活かした地域産業活性化」  
特別講演

作物育種の効率化を目指した沖縄県の取り組み

浦崎直也氏（沖縄県農業研究センター 研究企画班長）

シーズ紹介

I C T & I o Tを基盤とした果実生産システム

殿岡裕樹氏（琉球大学 研究推進機構 上席リサーチ・アドミニストレーター）

加工用カンショ新品種「沖育09-8-14」の特性と利用について

謝花治氏（沖縄県農業研究センター 主任研究員）

新規抗菌防藻材 A B C o a t

大北正信氏（大阪ガスケミカル(株) フロンティア マテリアル研究所）

沖縄アグー豚の品種特性とブランド化へ向けた研究・取組み

當眞嗣平氏（沖縄県畜産研究センター 主任研究員）

商品開発から販売までの実例

篠原辰明氏（(株)食のかけはしカンパニー 代表取締役）

個別相談会

- ・アグリ技術シーズセミナー in 北陸 12月19日(火) 金沢商工会議所会館

「腸内環境・細菌研究の最前線と北陸での展開」

シーズ紹介

腸内細菌叢異常と肝発癌

飯田宗穂氏（金沢大学 医薬保健研究域医学系 助教）

腸内環境を作用起点とした食品の機能性について

東村泰希氏（石川県立大学 生物資源環境学科 助教）

レジスタントスターチに着目した2型糖尿病予防食品の開発

松本健司氏（石川県立大学 生物資源環境学科 准教授）

日本の発酵食品の腸管および腸内細菌叢を介する機能性について

辻紀子氏（産業技術総合研究所 首席主任研究員）

ヒト腸内常在菌最優勢種のハイスループット培養系の開発とその利用

栗原新氏（石川県立大学 生物資源環境学部 准教授）

招待講演

日本人の腸内フローラはどのようにして決まり、今何が起きているのか？

内藤裕二氏（京都府立医科大学大学院医学研究科 准教授）

個別相談会

- ・知的財産セミナー in 沖縄 2月5日(月) 沖縄産業支援センター

「農林水産・食品分野の研究開発における知的財産マネジメント」及び競争的研究資金の申請に関する個別相談会

特別講演1

6次産業化のためのオープン・クローズ戦略

奥野彰彦氏（S K特許業務法人 代表社員 弁理士）

事例紹介1

「Society5.0におけるファームコンプレックス研究開発プラットフォーム」における知的財産マネジメント

吉田重信氏（三菱ケミカル(株) 研究開発戦略部 マネージャー）

#### 特別講演 2

沖縄の知的財産活用の現状と今後の課題

檜原龍史氏（内閣府 沖縄総合事務所 知的財産室）

#### 事例紹介 2

沖縄伝統野菜クワンソウの研究開発・商品化における知的財産マネジメント

渡嘉敷哲氏（(株)クレイ沖縄 社長）

#### 個別相談会

・知的財産セミナー in 北陸 2月27日(火) 金沢商工会議所会館

「農林水産・食品分野の研究開発における知的財産マネジメント」

#### 特別講演

6次産業化のためのオープン・クローズ戦略

奥野彰彦氏（SK特許業務法人 代表社員 弁理士）

#### 事例紹介

産学官連携で展開する果肉まで赤いリンゴ「紅の夢」

松本和浩氏（静岡大学 農学部 准教授）

「Society5.0におけるファームコンプレックス研究開発プラットフォーム」における知的財産マネジメント

吉田重信氏（三菱ケミカル(株) 研究開発戦略部 マネージャー）

北陸を代表する農学系大学（石川県立大学）の知的財産戦略、産学連携及び商品化例

三沢典彦氏（石川県立大学 教授 産学官連携学術交流センター長）

明和工業株式会社の研究開発・商品化における知的財産マネジメント

北野滋氏（明和工業(株) 代表取締役）

## （2）農林水産・食品分野における研究成果の普及状況に関する調査等

「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（農食研究推進事業）における研究成果の普及状況把握・分析調査等に係る業務」委託事業において平成24年度に終了した136課題及び27年度に終了した92課題の研究成果の普及状況の調査、農食研究推進事業の研究課題の審査・評価関連補助事務、29年度実施中の176研究課題の進行管理の支援等を実施した。

### ○研究成果の普及状況把握・分析調査等

実用研究段階の課題として、平成27年度に終了した「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（農食研究推進事業）」実用技術開発ステージの50課題及び平成24年度に終了した「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」の104課題を対象に実施した。また、基礎研究及び応用段階の研究課題として、農食研究推進事業のシーズ創出ステージ、発展融合ステージに採択された課題及び農研機構生物系特定産業技術研究支援センター（生研センター）が実施した「イノベーション創出基礎的研究推進事業」で採択され農食研究推進事業に移管された課題のうち平成27年度に終了した42課題並びに生研センターで実施された「イノベーション創出基礎的研究推進事業」（技術シーズ開発型及び発展型）で採択され平成24年度に終了した32課題を対象として実施した（2年後調査92課題、5年後



調査136課題の計228課題を対象)。

2年後及び5年後の両調査とも、一次調査として全課題について事業終了後の研究の継続・発展状況等を把握するためアンケート調査を実施した。アンケート調査結果を踏まえて、実用研究段階の課題については、普及上の問題点を明らかにするために普及状況に差がある、終了2年後において研究成果が普及(実用化)に至った6課題と研究成果が得られたものの普及(実用化)に至っていない5課題、終了5年後において研究成果が普及(実用化)に至った5課題と研究成果が得られたものの普及(実用化)に至っていない5課題の合計21課題について面接調査を実施した。また、シーズ創出ステージ及び発展融合ステージ段階の研究課題では、研究終了後に次のステージで活用されていない4課題について、活用されていない理由、今後の活用方策について面接調査を実施した。

これらの調査結果については、報告書に取りまとめて提出した。

#### ○研究課題の審査・評価関連事務等

- ・平成29年度新規採択研究課題選定の2次(ヒアリング)審査に係る業務：一次書面審査を通過したシーズ創出ステージ14課題、発展融合ステージ10課題、実用技術開発ステージ(ニーズ対応型+重要施策対応型)27課題、育種対応型4課題のヒアリング審査の補助を行った。ヒアリング審査の結果、採択された29課題(シーズ創出ステージ7課題、発展融合ステージ4課題、実用技術開発ステージ(ニーズ対応型+重要施策対応型)15課題、育種対応型3課題)の研究総括者宛に採択通知を送付した。採択に至らなかった課題については評価委員の指摘事項を委託者が取りまとめた不採択課題通知を送付した。
- ・新規採択研究課題の研究総括者及び委託契約経理担当者説明会に係る業務：6月6日(火)13:30から虎ノ門法曹ビル地下1階大ホールABにおいて開催された平成29年度新規採択研究課題の研究総括者及び委託契約経理担当者説明会の運営補助事務を行った。
- ・平成29年度研究成果発表会に係る業務(2回開催)：第1回発表会は東京ビッグサイトにおいて開催されたアグリビジネス創出フェア会場において10月4日(水)～6日(金)の3日間、28年度終了課題から口頭発表16課題及びポスター展示14課題(うち8課題は口頭発表と重複)を行った。第2回発表会は11月10日(金)、東京都大田区産業プラザP i Oにおいて、「知」の集積と活用の中産学官連携協議会のポスターセッションとの同時開催で実施した。19課題がポスター展示され、うち8課題については口頭発表も併せて行われた。
- ・平成29年度中間評価及び事後評価に係る業務：新たな評価委員候補者として149名の名簿を作成して提出した。中間評価対象課題は、平成27年度に採択された育種対応型7課題と平成28年度に採択されたシーズ創出ステージ11課題、発展融合ステージ9課題及び実用技術開発ステージ15課題の42課題について実施した。事後評価対象課題は、平成26～28年度に採択された72課題(シーズ創出ステージ16課題、発展融合ステージ21課題、育種対応型4課題を含む実用技術開発ステージ35課題)及び29年度緊急対応研究課題3課題の合計75課題であった。事後評価対象課題について、研究成果紹介用冊子「研究紹介2018」原稿の作成を依頼した。
- ・平成30年度ステージ移行審査に係る業務：ステージ移行の対象となるシーズ創出ステージ及び発展融合ステージの29年度終了37課題のうち、ステージ移行を希望した課題について、ステージ移行審査に係る業務を補助した。

- ・平成28年度研究成果パンフレットの原案作成、印刷及び配布：平成28年度に終了した43課題を全て収録した研究成果集「研究紹介2017」を作成し、3千部を印刷し、関係機関に配布するとともに各種行事の際に配布した。また、平成29年度に終了した75課題についても同様に研究成果集「研究紹介2018」として作成し、3千部を印刷した。
- ・平成29年度緊急対応研究課題の選定のための書面審査に係る業務：6月8日(木)～6月23日(金)(1課題)、6月26日(月)～7月14日(金)(1課題)及び10月26日(木)～11月13日(月)(1課題)に行われた3回の緊急対応研究の募集に対応して、書面審査の補助、結果の取りまとめ等を行った。
- ・外部評価委員候補者名簿(データベース)の作成及び外部評価委員候補者の調査・補充を行った。

#### ○専門POによる研究課題の進行管理

- ・実施課題の分野別内訳を踏まえ専門POとして60名を委嘱し、各課題に配置した。専門POの業務として、29年度新規採択課題については審査結果や推進会議の結果に基づく研究計画の改善点の指導及び見直しの確認を、継続課題については推進会議の結果や中間評価結果に基づく研究計画の改善点の指導及び見直しの確認を行った。また、毎年度の研究報告書の作成指導では、継続実施課題及び終了課題について査読を行った。

### (3) 新たな提案公募型研究事業における外部評価委員候補者選定調査等

平成30年度に実施予定の新たな提案公募型研究事業を早期に研究開始できるよう、採択に向けた審査を行える専門家の発表論文等を調査して審査候補者名簿を作成し、それを基に個々の課題提案の専門分野を分析することによって、適切な審査を行える専門家を選定するための事業を実施した。

- ・応募研究課題に対して行う外部評価委員候補者の調査及び名簿の作成：農林水産研究・食品研究をはじめ、医学・工学・情報・環境等の異分野も含めた幅広い研究者情報を収集し、外部評価委員の調査・補充を行い、約1,600名の外部評価委員候補者名簿(データベース)を作成し、提出した。
- ・1次(書面)審査に対する外部評価委員候補者の割当：外部評価委員候補者名簿に基づき、各応募課題の評価委員候補者の選定を行い、提出した。
- ・外部評価委員に係る1次(書面)審査実施依頼：決定された外部評価委員に対して審査を依頼するとともに、評価結果の回収・とりまとめを行った。
- ・2次(ヒアリング)審査に係る外部評価委員候補者の提案：基礎研究ステージ、応用研究ステージ及び開発研究ステージの評価委員のうち、交代を予定する委員について、代替の委員候補者を推薦した。

### (4) 食料生産地域再生のための先端技術展開事業における研究課題の進行管理調査等

東日本大震災の被災地である岩手県、宮城県、福島県を対象に、大規模な実証研究を実施して、研究成果を早期に社会還元することを目的に実施されている「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の進行管理調査業務を行うため、20名の専門POを配置し、本事業において実施中の16研究課題の進行管理の支援等を実施した。

専門POは、担当研究課題に係る研究動向等の調査・情報収集・提供、進捗状況の把握と

管理、その他農林水産技術会議事務局担当官との連絡調整業務を行った。

また、専門POの業務管理を行うとともに、農林水産技術会議事務局の総括POと20名の専門POとの円滑な連絡調整を図るために、常勤の専門PO管理者を配置し、農林水産技術会議事務局との連絡を密にするとともに、専門POとの情報の共有を図った。

## (5) 植物品種の保護、開発等に関する調査研究

### ア 「植物品種保護戦略フォーラム」の活動

植物品種育成者権の保護とその活用の促進に寄与するために「植物品種保護戦略フォーラム」(会員：約 180 組織・個人)の事務局を担い、植物品種育成権侵害対策や活用に関する活動として、品種保護制度と知的財産、種苗産業に関する施策、植物遺伝資源などをテーマとした講演会の開催、メーリングリストを通じたフォーラム関係者への情報提供(PVP17-1~98)、登録品種の統一表示マーク(商標「PVP」)の普及等に取り組んだ。

- ・総会、講演会 6月20日(火) 13:40~16:20 三会堂ビル9階「石垣記念ホール」  
講演会プログラム

「情勢報告」

農林水産省食料産業局知的財産課種苗室長 中山 知子 氏

「野菜植物品種特許許諾国際プラットフォームの概要」

タキイ種苗株式会社 総務部法務課専任課長 寺田 雅一 氏

「韓国における海外品種の生産、流通、品種保護の現状」

慶北大学名誉教授 李 基明 氏

- ・第1回企画委員会 6月13日(月) 11:00~ 三会堂ビル
- ・第2回企画委員会 11月15日(火) 13:30~ AP新橋虎ノ門

### イ 「新品種産業化研究会」の活動

研究会には地域経済の活性化につながる植物新品種の産業化を促進するため、法人22機関、個人44名が参加し、関連情報の交換や共同研究の推進等を図った。

- ・総会 7月28日(金) 13:00~15:00 三会堂ビル2階B会議室
- ・第1回講演会 30年1月16日(火) 13:30~16:30

共同通信会館5階A+B会議室(次世代育種技術研究開発プラットフォーム等と共催)

「SIP新たな育種体系の確立」におけるゲノム編集作物等の研究開発の状況

筑波大学 生命環境系 教授 江面 浩 氏

ゲノム編集技術に関する最新知財動向

特許業務法人 平木国際特許事務所 塚原 優子 氏

ゲノム編集など新たな育種技術をめぐる規制動向

名古屋大学 環境学研究科 教授 立川 雅司 氏

- ・第2回講演会 30年3月19日(月) 14:00~16:00 三会堂ビル2階S会議室  
業務用・加工用米品種の紹介

農研機構 次世代作物開発研究センター 稲育種ユニット長 石井 卓朗 氏

農食ビジネス推進センターの新品種産業化に向けた取組

農研機構 食農ビジネス推進センター センター長 坂井 真 氏

・すいおう分科会：

運営会議 6月29日(木) 10:30~12:00 東洋新薬東京支店

10月4日(水)~6日(金)に開催されたアグリビジネス創出フェア2017に、新品種産業化研究会(すいおう分科会)としてブースを出展した。

・油糧米分科会：

総会 6月1日(木) 14:00~16:00 (JATAFF 会議室)

講演会 11月29日(水) 13:00~15:30 (三会堂ビル9階第2会議室)

「米粉生産とこめ油の原料問題の連携の可能性を探る」

## ウ 東アジア包括的植物品種保護戦略事業

東アジア各国の品種保護制度の整備・充実に支援し、その国際調和を図ることを目的として実施した。

6月30日(金) 第1回検討委員会

7月25日(火)~30日(日) トマトDUS試験研修 (カンボジア プノンペン及び近郊)

8月24日(木) PVP活動強化セミナー (ベトナム ホーチミン)

9月11日(月)~12日(火) 2017年度本会合、意識啓発セミナー

(ミャンマー ネピドー)

10月16日(月)~18日(水) トマトDUS試験研修 (カンボジア)

10月31日(火) 第2回検討会

11月7日(火)~10日(金) ベトナムPVP制度視察研修 (ミャンマー)

11月20日(月) 中・北部における国内PVPセミナー (ベトナム)

1月8日(月)~10日(水) 林業局植物新品種保護セミナー (中国)

1月22日(月)~26日(金) ミャンマー トウモロコシの栽培試験研修 (ミャンマー)

2月9日(金) 第3回検討会

## エ 気候変動等に対応した海外遺伝資源の取得に係る枠組み構築委託事業

遺伝資源保有国と遺伝資源の取得・利用に関する枠組みを構築することにより、今後の遺伝資源の導入促進に資するための本事業のうち、東南アジア地域での植物遺伝資源調査を分担した(事業の実施主体である三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)から業務請負)。ベトナムとは、有望系統を日本の系統と交配する育種プログラムを実施し、後代の日本への導入、インドネシアとはジーンバンクを通じて遺伝資源交換による取得を目指した。

6月14日(水) 打合せ会議 (MAFF、三菱、JATAFF)

6月~7月 ベトナムとのMTA案を関係者に提示して調整

7月6日(木) 第1回検討会

10月11日(水) 打合せ会議 (山口大、JATAFF)

11月1日(水)~2日(木) インドネシア現地調査

11月30日(木)~12月1日(金) ベトナム現地調査

12月5日(火) 第2回検討会

- 2月1日(木) 打合せ会議 (MAFF、農研機構野菜花き研究部門、遺伝資源センター、JATAFF)
- 2月15日(木) 打合せ会議 (MAFF、遺伝資源センター、JATAFF)
- 2月16日(金) 打合せ会議 (山口大、JATAFF)
- 2月21日(水)～22日(木) インドネシア現地調査
- 3月2日(金) 第3回検討会

#### オ 「次世代育種技術研究開発プラットフォーム」

「知」の集積による産学連携推進事業のうち研究開発プラットフォーム運営等委託事業に参画した(本年度は4月3日(月)付で受託)。このプラットフォームは、遺伝資源問題、育種技術の発展に伴う知財や規制、社会実装の問題等について情報交換、議論を行い、遺伝資源の有効活用、ゲノム編集を始めとする次世代育種技術等を利用した新品種開発とその社会実装を図るためのビジネスモデルを作成し、それを実現するのに必要な技術課題等についての研究課題を企画提案することを目的とした。

- 5月12日(金) AI-ロボット温室打合せ (10名参加) 応募資料案について
- 6月2日(金) AI-ロボット温室打合せ (9名参加) 審査プレゼン資料について
- 6月16日(金) AI-ロボット温室面接審査対応
- 7月4日(火) AI-ロボット温室 モデル事業に採択決定
- 7月27日(木) AI-ロボット温室事業ヒアリング対応
- 9月21日(木) AI-ロボット温室コンソーシアム・キックオフミーティング
- 10月26日(木) プラットフォーム勉強会のためのアンケート実施 (メール)
- 12月19日(火) 平成29年度第1回勉強会 (三会堂ビル、29名)
  - ①ゲノム編集技術の社会実装に対する取組みについて (農水省 中川室長)
  - ②農業・植物バイオに関する各国の戦略と企業の動向 (JABEX 坂元次長)
- 12月21日(木) AI-ロボット温室事業プレスリリース
- 12月26日(火) プラットフォーム訪問ヒアリング対応 (9名参加)
- 30年1月16日(火) 平成29年度第2回勉強会 (共同通信会館、75名、JATAFFと共催)
  - ①SIPにおけるゲノム編集作物等の研究開発の状況 (筑波大 江面教授)
  - ②ゲノム編集技術に関する最新知財動向 (平木国際特許事務所 塚原弁理士)
  - ③ゲノム編集など新たな育種技術をめぐる規制動向 (名古屋大 立川教授)
- 3月22日(木) 平成29年度プラットフォーム総会及び意見交換会 (三会堂ビル)
  - 総会：活動報告、平成30年度の事業計画等
  - 意見交換会：実施中及び計画中の研究コンソーシアムの紹介
    - ①高付加価値野菜品種利用促進のためのAI-ロボット温室開発
    - ②次世代シーケンシング技術を用いたきこの品種のDNA鑑定技術開発

#### カ 植物品種等海外流出防止緊急対策事業 (28年度補正予算、定額補助)

海外において品種登録出願を行うことが我が国農産物の輸出力強化につながるものについて、海外出願に係る経費の支援を行うとともに、当該国への出願のためのマニュアルの作成、相談窓口の設置を行った。特に、全国8ブロックで「海外品種登録出願説明会」を開催

し、このうち、関東、近畿については、米国、EU、中国、韓国の品種保護当局から担当官を招聘した。また、海外品種登録出願を促進するためのパンフレット、マニュアル追補版、ビデオ、ポータルサイトを作成した。

(一社)日本種苗協会、(一社)日本果樹種苗協会、全国食用きのこ種菌協会及び農研機構種苗管理センターとのコンソーシアムの代表機関として活動した。

海外品種登録出願経費の支援(公募)；147品種延べ367件の応募について、引き続き支援を行うとともに、1月に追加公募した結果、33品種(延べ93件)の支援が決定した。

#### キ 植物品種等海外流出防止総合対策事業(29年度予算、1/2補助)

海外において品種登録出願を行うことが我が国農産物の輸出力強化につながるものについて、海外出願に係る経費の支援、当該国への出願のためのマニュアルの作成、相談窓口の設置及び伝統野菜等の種苗資源の保護の取組の支援を行った。

(一社)日本種苗協会、(一社)日本果樹種苗協会、全国食用きのこ種菌協会及び農研機構種苗管理センターとのコンソーシアムの代表機関として活動した。

海外出願については、5月15日から公募し、17品種(延べ32件)の支援が決定した。種苗資源の保護については、6月及び8月に公募した結果、3件の申請があり、支援が決定した。

海外出願マニュアルの作成については、10月15日から21日まで台湾の現地調査を行った。

#### ク 植物品種等海外流出防止緊急対策事業(29年度食料産業局知的財産課補正予算、定額・1/2補助)

海外において品種登録出願を行うことが我が国農産物の輸出力強化につながるものについて、海外出願に係る経費の支援を行った。

(一社)日本種苗協会、(一社)日本果樹種苗協会、全国食用きのこ種菌協会及び農研機構種苗管理センターとのコンソーシアムの代表機関として活動した。

2月20日から3月16日まで公募し、28品種(延べ75件)の支援が決定した。

#### (6) 地理的表示産品情報発信委託事業

「地理的表示保護制度活用総合推進事業」(農林水産省食料産業局知的財産課)のうち「地理的表示産品情報発信委託事業」に応募、採択され、取り組みを進めた。

本事業は、地理的表示保護制度の活用による地域産品のブランド化の推進の一環として、平成29年時点で8,073億円の実績であった農林水産物・食品の輸出額を、平成31年度に1兆円まで拡大するという農林水産省の政策目標の実現の一端を担う取り組みとして位置付けられる。

当該制度は、地域で育まれた伝統を有し、その高い品質等の特性が生産地と結びついている農林水産物・食品の名称を、その品質等とあわせて保護する制度であり、平成27年6月から運用が開始され、平成30年4月9日現在、62産品が登録されるに至っている。

本事業では、農林水産物の成長産業化のため、我が国農産物の国際的知的財産の保護及び輸出促進を図る観点から、当該制度の活用の更なる推進につなげるべく、我が国の地理的表

示登録産品の情報を国内外の関係者にわかりやすく発信することを目的としてウェブサイトを作成し、3月28日より公開となった。

本ウェブサイトでは平成29年6月23日までに登録された38産品を対象とし、それぞれ動画と解説文を作成して産品紹介ページのコンテンツとした。また、本事業の趣旨に鑑み、日本語ページのほか、英語、中国語、タイ語による対応も行った。本ウェブサイトは産品の検索機能、産品マップ等を備え、G I登録の各付随情報やフリーキーワードによる検索やデフォルトした日本地図から所期の産品の紹介ページへの誘導を可能とした。

### 3. 農林水産・食品分野における試験研究、技術開発を振興するための助成及び先端産業技術の開発

#### 1) 研究の助成

協会が運営する「新稲作研究会」事業として、我が国の土地利用型農業の活性化及び需要に応じた農業生産の拡大・環境保全に資するため、低コスト稲作、水田高度利用、野菜果樹作等の機械化一貫栽培体系の確立と普及を目的とした試験及び現地実証展示圃事業を、試験研究機関及び普及機関に委託して実施した（27課題実施）。

##### ①平成29年度役員会等の開催

- ・第1回委員会 6月13日(火) 八重洲倶楽部会議室
- ・第2回委員会 11月29日(水)午後 八重洲倶楽部会議室
- ・実施課題審査選考委員会 11月29日(水)午前 八重洲倶楽部会議室

##### ②平成29年度委託試験・現地実証展示圃の委託課題

27課題について実施した。

	新規	継続	計
試験	10	11	21
展示	5	1	6
計	15	12	27

##### ③平成30年度委託試験・現地実証展示圃設置等の課題募集

- 募集期間：6月27日(火)～9月29日(金)  
 応募件数：39課題（うち継続13、新規26）  
 内定数：30課題（うち継続13、新規17）

	新規	継続	計
試験	14	12	26
展示	3	1	4
計	17	13	30

##### ④中間検討会等の開催

- ・第1回現地中間検討会 7月21日(金) 水稻の「密苗」移植栽培技術の確立・実証  
 室内検討会議 アートホテル弘前シティ3階「エメラルド」（青森県弘前市内）  
 現地見学 （地独）青森県産業技術センター農林総合研究所内 試験圃場、  
 平川市内の農家の密苗移植実証圃場
- ・第2回現地中間検討会 10月18日(水) 高品質・高付加価値農産物の生産・供給技術の  
 確立  
 室内検討会議 ホテル「グランデはがくれ」2階フラワーホール（佐賀市内）  
 現地見学 佐賀県農業試験研究センター 白石分場内 試験圃場、  
 JAさが白石地区育苗センター
- ・研究会協力事業
  - 1) べんがらモリブデンコーティング水稻直播栽培研修会及び現地検討会  
 主催・期日 宮城県古川農業試験場、7月27日(木)及び7月28日(金)



研修会 宮城県古川農業試験場会議室及び同試験場内圃場  
現地検討会 宮城県黒川郡大和町・東松島市・遠田郡美里町内現地圃場

## 2) 水稻高密度播種育苗現地検討会

主催・期日 長野県(農政部農業技術課・上伊那農業改良普及センター)、9月5日(水)  
室内検討会議 J A上伊那春富支所会議室(長野県伊那市内)  
現地見学 農事組合法人「はるちか」現地試験圃場(伊那市内)

## ⑤平成29年度講演会・成績検討会

日時: 3月1日(木) 10:00~19:00

場所: メルパルク東京(港区芝公園2-5-20)

講演会:

### 1) 業務・加工用キャベツ生産への取組の現状と今後の課題

株式会社銀河農園 代表取締役会長 橋本 正成 氏

(コメンテーター 農事組合法人水分農産 組合長 西田 守 氏)

### 2) 野菜の機械化の現状と課題

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業技術革新工学研究  
センター スマート農業研究統括監 貝沼 秀夫 氏 (新稲作研究会委員)

### 3) 野菜の生産振興の動向と課題

農林水産省生産局園芸作物課 園芸流通加工対策室 課長補佐 荒木 智行 氏  
成績検討会:平成29年度においてⅠ大規模水田営農を支える省力・低コスト技術の確立、  
Ⅱ高品質・高付加価値農産物の生産・供給技術の確立、Ⅲ水田を活用した資源作物の効率的  
生産・供給技術の確立、Ⅳ環境保全を配慮した生産技術の評価・確立、Ⅴ情報処理等先  
端技術の活用による高生産システムの確立の5分野で実施された27課題について、委託  
試験・現地実証展示圃成績の検討を行った。

## 2) 農林水産・食品産業マイクロ・ナノバブル技術研究組合の事務局活動

マイクロバブル発生装置利用に関する可能性調査、大学、企業等の情報収集と会員等への  
発信、シンポジウム・勉強会・視察会等を開催するとともに、「知」の集積と活用の場におい  
て「農林水産・食品産業ファインバブル研究開発プラットフォーム」の一員として、他分野  
とのマッチングを図り、研究開発を推進している。

・29年度第1回理事会及び第8回通常総会 5月25日(月)13:30~ JATAFF 会議室

・公開シンポジウム主催 11月22日(水)午後 株式会社前川製作所 本社 共創ホール

基調講演

マイクロ・ナノバブルの基礎を振り返って

芹澤昭示氏(京都大学名誉教授)

講演

種子発芽促進のメカニズムと国際標準化への取組み 大下誠一氏(東京大学特任教授)

マイクロ・ナノバブル水を用いた塩類集積土壌の改良

矢沢勇樹氏(千葉工業大学准教授)

水田からのメタン排出削減のための酸素ナノバブル水の灌漑利用

南川和則氏(農研機構 農豪環境変動研究センター 主任研究員)

事例紹介

水耕栽培におけるナノバブル利用が葉菜類の生育に与える影響

小林紀子氏（株式会社フジタ 環境研究部）

マイクロ・ナノバブル水による植物生長の実例報告

江口俊彦氏（株式会社オーラテック 代表取締役）

ナノバブル水を活用した稲づくり

梨子木久恒氏（株式会社多自然テクノワークス 代表取締役）

- ・ 第9回ファインバブル国際シンポジウム後援 12月6日(水) 東京大学 弥生ホール
- ・ 29年度第2回理事会 3月30日(金) 13:30～ JATAFF 会議室

### 3) 戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）の実施

**N B Tの社会実装のための社会科学的調査と導入遺伝子残存や変異発生等に関する科学的知見の集積**

N B Tを利用して開発された農林水産物の産業化を推進するための会議（N B T実用化戦略会議）の事務局を担当するとともに、国民の受容レベルの推測、上市・普及のための具体的戦略・手法を提案した。昨年度から戦略会議の下に設けた4つの部会（技術調査部会、農産部会、園芸部会、水産部会）を中心に検討を進めた。また、本年度からN B Tの規制当局（環境、食品安全等）との接触・意見交換等を進めた。

- ・ 7月14日（金） S I P 4系設計会議
- ・ 9月6日（水） 平成29年度第1回水産部会
- ・ 9月21日（木） 平成29年度第1回園芸部会
- ・ 9月29日（金） 平成29年度第1回技術調査部会
- ・ 9月29日（金） 農産部会に関する打合せ
- ・ 11月10日（金） 規制当局との意見交換会
- ・ 11月16日（木） S I P 評議委員ヒアリング
- ・ 12月18日（月） S I P 4系推進会議
- ・ 12月19日（火） ゲノム編集トマトの実用化に関する打合せ
- ・ 1月30日（金） 平成29年度第2回技術調査部会
- ・ 2月13日（火） 平成29年度第2回園芸部会
- ・ 2月19日（水） 平成29年度第2回水産部会
- ・ 2月27日（火） 平成29年度第1回農産部会

## Ⅱ その他の事業

### (1) 農林水産技術同友会等への協力

#### ア 農林水産技術同友会事務局

幹事会 5月24日(火) 15:00~17:00 JATAFF 会議室  
総会・講演会・懇親会 6月22日(水) 14:00~19:00 法曹会館  
新年賀詞交歓会 1月24日(水) 12:00~14:00 法曹会館  
同友会報: 63号、64号発行  
同友会メールマガジン: 10号~15号、メルマガ年賀状(3月31日まで)

#### イ 全国農業関係場所長会事務局

第1回役員会 5月18日(木) 三会堂ビルS会議室  
第2回役員会・29年度総会・表彰式 6月22日(木) 三会堂ビル9階石垣記念ホール  
第3回役員会 11月22日(木)午後 三会堂ビルS会議室

### (2) 民間育成品種等の公的機関での評価試験委託

会員企業からの要請に基づき、会員企業が育成した品種の評価試験や新資材に関する試験を関係試験研究機関に委託して実施した。今年度は2社について延べ5県で実施した。

### (3) 専門部会活動 「安全性・品質保証部会」

部会活動を通じて、会員活動の充実と、関係官庁、関係業界との情報交換、さらには会員参加による効果的な事業運営を図る。

- ・第1回幹事会 5月11日(木) 16:00~17:30 JATAFF 会議室  
新部会長にMCフードスペシャリティーズ(株)の斉藤知明氏を選出
- ・第1回部会講演会 7月27日(木) 15:00~17:00 三会堂ビル2階S会議室  
国際標準を視野に入れた食品安全マネジメントのあり方  
山口大学共同獣医学部病態制御学講座 豊福 肇 教授  
参加者数35名
- ・第2回幹事会 10月3日(火) 16:00~17:30 JATAFF 会議室  
第1回部会講演会の振り返り及び第2回以降部会講演会の候補テーマの協議を実施
- ・第2回部会講演会 12月13日(水) 15:00~17:00 三会堂ビル2階S会議室  
食品添加物制度を巡る課題及び食品衛生法改正に向けた動向との関連について  
一般社団法人日本食品添加物協会 常務理事 樋口 彰 技術委員長  
参加者数30名
- ・第3回部会講演会 4月26日(木) 15:00~17:00 共同通信会館A・B会議室  
遺伝子組換え表示制度の見直し—そのはじめから結論まで—  
元東京海洋大学大学院 食品流通安全管理専攻 教授  
消費者庁「遺伝子組換え表示制度に関する検討会」座長 湯川 剛一郎 氏

### Ⅲ 総務関係

#### (1) 総会

29年度定時総会 6月15日(木) 13:15～14:40 三会堂ビル9階石垣記念ホール

以下の議案を提案・報告し、審議の後、それぞれ承認・議決された。

第1号議案 平成28年度決算報告承認の件(監事監査報告)

第2号議案 役員の一部改選の件

報告事項 平成28年度事業報告

平成29年度事業計画

平成29年度収支予算

#### (2) 理事会

29年度第1回理事会 5月22日(月) 13:30～15:00 三会堂ビル2階A会議室

以下の議案を審議し、それぞれ承認・議決された。

第1号議案 平成28年度事業報告の件

第2号議案 平成28年度決算報告の件

第3号議案 監事監査報告の件

第4号議案 運営委員選出の件

第5号議案 役員の一部改選の件

第6号議案 平成29年度定時総会招集等の承認の件

29年度第2回理事会 6月15日(木) 14:50～15:00 三会堂ビル9階第1会議室

以下の議案を審議し、承認された。

第1号議案 専務理事選任の件

29年度第3回理事会 11月1日(水) 10:30～11:40 三会堂ビル2階A会議室

以下の議案を提案・報告し、審議の後、それぞれ承認・議決された。

第1号議案 入会承認

第2号議案 運営委員の一部改選

第3号議案 関係法令の改正に伴う各種規程の一部改正

第4号議案 代表理事、業務執行理事の職務の執行状況に関する報告

29年度第4回理事会 3月9日(金) 10:30～12:30 三会堂ビル2階A会議室

以下の議案を提案・報告し、審議の後、それぞれ承認・議決された。

第1号議案 平成30年度事業計画及び収支予算の承認について

第2号議案 公募役員候補者選定委員会委員の承認について

第3号議案 規程類の一部改正の承認について

第4号議案 入会の承認について

第5号議案 代表理事、業務執行理事の職務の執行状況の報告について

**(3) 事業監査**

5月12日(金) 10:00～12:10 JATAFF 会議室にて、平成28年度事業について小栗邦夫監事、篠崎聡監事による監査が行われ、業務の執行は適正であったと認められた。

**(4) 運営委員会**

9月26日(火) 13:30～15:30 三会堂ビル2階S会議室